

〔進歩色葉集無_{タシ}蒸麪_{タシ}

〔書言字考節用集六_{タシ}食_{タシ}蒸麪_{タシ}

〔今川大雙紙下〕食物之式法の事

一點心之時のむしむぎのきざみ物の事、其内に青き物あるべし、それはからしの葉也、是はわんの中へはさみ入て喰事、おかしき事也、むぎの油をとらんが爲也、入てやがてはさみ出し、前の所に置て喰也、

〔宗五大草紙上〕人の相伴する事

一點心の時參様○中 むしむぎはあけざまにわんへ入られ候○中

もしむぎのこきり物、右しゐたけ、左あをみ、中六てうすさい、まんぢうのすさい、前むしむぎのすさい、さきたるべし、すさいはくはぬがよし、又まんぢうのすさい右、むしむぎのすさい左に並て置共云、又たうじすさいも、こもちやわんのさらに入候と云、むしむぎのこきり物、さんせう左、しやうが右、あんにん中、むぎのすはる時、此さらを左へのけて、むぎをすへべし、まんぢうのこ、此さらをし左にをくと云說有、猶可尋、汁へこを入候程にはし持ながらまんぢうをわり候、左の手なるを置、右の手なるを左へとりてくふべし、こをこぼさぬやうにわるべし○中

〔略○中〕

一饅頭のなき時、むしむぎの參様、出家方にはそへ肴はなし、さうけいに引かへ候○圖
一一獻の時、むしむぎ參様、そへ肴あるべし○中

一同時ぬるひやむぎ參様、但殿中にては見及ばず候、

〔大草殿より相傳之聞書〕一あつむぎ集養の事、先さかなに取替られ候時、さかなのはしをおさめ候事、前のごとしいづれも御膳参りたる時、すさいをとり、我左の膳のすみにをく、又左の手にて膳の右のさきのすさいを取て、膳の左のさきにをく、其後右の手にて中のすさいを取て、我前右